

2023年10月20日に公表しました「建設経済モデルによる建設投資の見通し（2023年10月）」の記載内容に誤りがあったため修正しました。

## ■修正箇所①

2頁本文の冒頭

(誤) 2023年7～9月期 ⇒ (正) 2023年4～6月期

(誤)

### はじめに

本レポートは、「建設経済モデル」を用い、国民経済計算（四半期別 GDP 速報）の2023年7～9月期・2次速報を踏まえて予測した2023・2024年度の年度別・四半期別の建設経済の予測結果である。

#### ◆ モデルの概要

「建設経済モデル」は、建設投資活動を需要動向や各種経済指標等と関連づけた方程式体系で表し、マクロ的な景気の動きと整合する形で建設投資の見通しを描くことを目的としたマクロ計量経済モデルである。

こうしたモデル化によって、金融財政政策や海外景気の変動などにより、建設活動にどのような影響が及ぶかを簡便に計算することが可能となっている。予測は、四半期データをもとに向う1～2年のレンジで行い、当該年度や次年度の建設投資の水準、伸び、構成比等について、四半期別や年度別に、定量的なデータを得ることができる。

また、本モデルの中に組み込んだ細分化した建設投資から、『建設投資見通し』（国土交通省総合政策局建設経済統計調査室）の建設投資額（民間・政府、住宅・非住宅・土木・建築補修（改装・改修）、実質・名目）と同概念のデータを算出することができるようになっている。

(正)

### はじめに

本レポートは、「建設経済モデル」を用い、国民経済計算（四半期別 GDP 速報）の2023年4～6月期・2次速報を踏まえて予測した2023・2024年度の年度別・四半期別の建設経済の予測結果である。

#### ◆ モデルの概要

「建設経済モデル」は、建設投資活動を需要動向や各種経済指標等と関連づけた方程式体系で表し、マクロ的な景気の動きと整合する形で建設投資の見通しを描くことを目的としたマクロ計量経済モデルである。

こうしたモデル化によって、金融財政政策や海外景気の変動などにより、建設活動にどのような影響が及ぶかを簡便に計算することが可能となっている。予測は、四半期データをもとに向う1～2年のレンジで行い、当該年度や次年度の建設投資の水準、伸び、構成比等について、四半期別や年度別に、定量的なデータを得ることができる。

また、本モデルの中に組み込んだ細分化した建設投資から、『建設投資見通し』（国土交通省総合政策局建設経済統計調査室）の建設投資額（民間・政府、住宅・非住宅・土木・建築補修（改装・改修）、実質・名目）と同概念のデータを算出することができるようになっている。

■修正箇所②

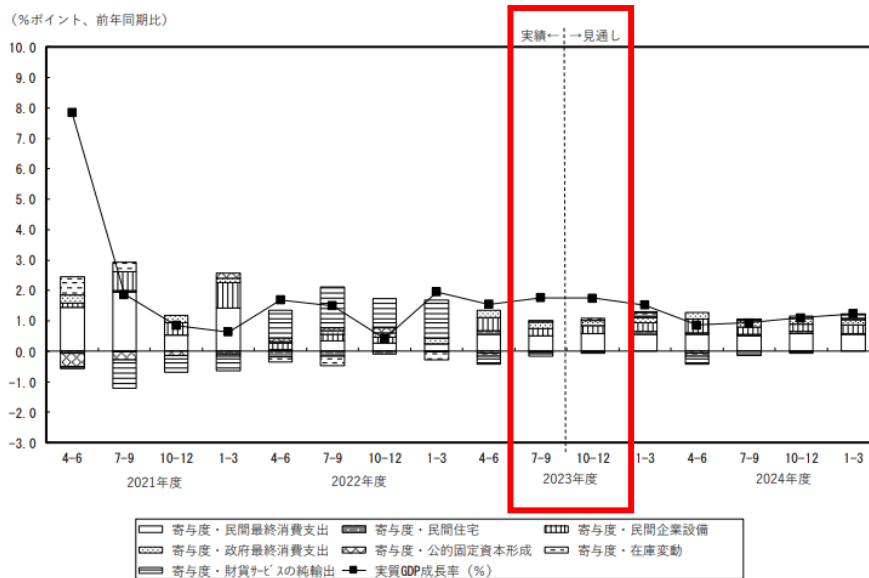
14 頁上段の図表 (●マクロ経済の推移 (四半期))

(誤) 実績は 2023 年度 7~9 月期まで、見通しは 2023 年度 10~12 月期から

(正) 実績は 2023 年度 4~6 月期まで、見通しは 2023 年度 7~9 月期から

(誤)

●マクロ経済の推移 (四半期)



(正)

●マクロ経済の推移 (四半期)

